



移り変わる街並み 戦後80年を迎えて④

【宇宜野湾】

今年度の「茶ぐわ〜ゆんたく」では、写真を通して、戦後80年の街やくらしの移り変わりを紹介しています。第四弾となる今回は、宇宜野湾についてご紹介します。

宇宜野湾は、沖縄戦で集落のほとんどが米軍に接収されたため、住民は戦後、主に元の集落の南側に移り住みました。

宜野湾市の行政区 (2025年現在)



現在の
宜野湾区

子どもたちの 遊び場だった給水タンク

今の水道が敷設される以前、宇宜野湾にあった簡易水道貯水タンク。今でも覚えていた方が多いのではないのでしょうか？

旧字の時には湧水が豊富で、戸数の約3分の1の家庭に井戸がありました。戦後現在地へ移動してからは湧水が少なく、産泉(ウブガー)産水を汲む湧水・共同井戸や、家庭井戸が残っている家から水を運んだり、水不足が深刻でした。

このような水不足を解消するため、昭和37(1962)年、産泉から水を汲み上げ、各家庭に給水する簡易水道が敷設されました。この際、産泉近くの土帝君(トゥテイカー)農業の神様(奥)の所に貯水タンクが設置されたのですが、子どもたちにとっては登って遊ぶ、良い遊び場になっていたそうです。



▲赤い太線内は戦前の旧字。約2/3は基地内にある。青い点線は戦後の新字。
①長田交差点 ②宜野湾区公民館 ③産泉(ウブガー)
【写真集じのーんどうーむら】宇宜野湾郷友会発行より

貯水タンクは戸数が増えるにつれ容量が足りなくなり、昭和58(1983)年に撤去されました。



▲簡易水道貯水タンク(1961年)
【写真集じのーんどうーむら】宇宜野湾郷友会発行より



▲普天間飛行場内に残るポンプ小屋跡(手前)と宇宜野湾の産泉(奥)。ポンプで産泉から貯水タンクへ水を送っていた。

はくぶつかん情報

戦後80年企画展Ⅱ「宜野湾 戦後生活史」

6月開催「沖縄戦の中の宜野湾」から連続する、第二弾企画の戦後編です。戦争で全てを失い、ゼロから始まった民衆の苦悩の歴史を、宜野湾の移り変わりと共に紹介します。

- ▼ 場 所 市立博物館 企画展示室
- ▼ 日 時 11月1日(土)～1月18日(日)
- ▼ 参加費 無料

博物館市民講座受講生募集!

①ドゥジンを作ってみよう

- ▼ 講 師 ドゥジン(桐衣)作りを体験してみます。齊藤 郁子(市立博物館職員)
- ▼ 日 時 11月30日(日) 14時～16時
- (受付13時30分)
- ▼ 場 所 市立博物館2階 研究室
- ▼ 対象・定員 一般・20人(先着順)
- ▼ 参加費 材料費+保険料50円
- ▼ 申込期間 11月9日(日) 9時～

- ▼ ②戦後のはじまりは野高から
- 収容所であった野高等をめぐり、宜野湾の戦後について解説します。
- ▼ 講 師 平敷兼哉(市立博物館館長)
- ▼ 日 時 12月7日(日) 13時～16時
- (受付12時30分)

- ▼ 集合場所 市立博物館
- ▼ 対象・定員 一般・25人(先着順)
- ▼ 参加費 50円(保険料として)
- ▼ 申込期間 11月16日(日) 9時～

問 市立博物館 ☎870-09317